



硬質クロムめっき専門

真生電化工業株式会社

環境経営レポート 2022年度

対象期間：2022年3月1日～2023年2月28日

発行日：2023年 3月 26日

改定日：2023年 4月 6日

**HARD
CHROMIUM
PLATING**

真生電化工業株式会社

1. 取組の対象組織・活動

●組織の概要

(1) 名称及び代表者名

真生電化工業株式会社
代表取締役： 石井 博

(2) 所在地

愛知県名古屋市西区山木1丁目236番地

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

責任者：石井 淳 TEL： 052-502-3121

(4) 事業内容

主要製品： 硬質クロムめっきの専門加工

(5) 事業規模 (決算年度:3月～翌年2月)

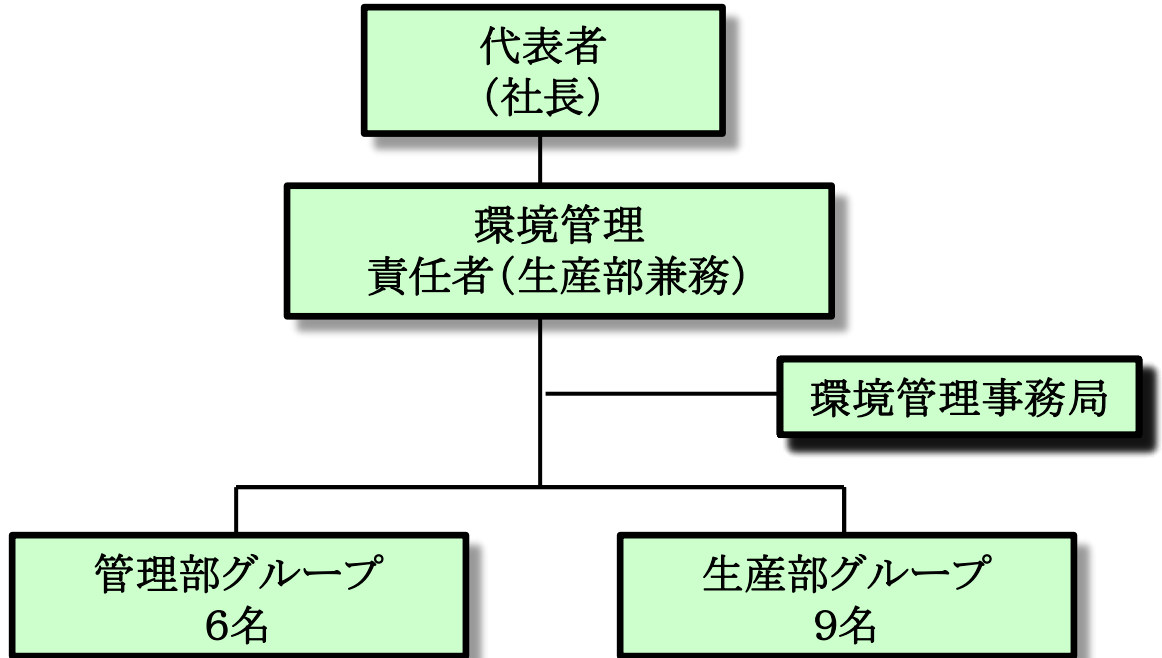
活動規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	116	89	93	111
従業員数	人	22	21	18	17

●認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 真生電化工業株式会社
活動： 硬質クロムめっきの専門加工

2. 実施体制

1) 実施体制図



2) 組織の役割・責任・権限

	役割・責任・権限	
代表者 (社長)	①	環境経営システムの総責任者
	②	環境方針の策定・見直し
	③	資源(人員・設備・費用)の準備
	④	環境管理責任者を任命
	⑤	全体の取組状況の評価と見直し
環境管理責任者	①	環境経営システムの構築・実施・管理
	②	環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境管理事務局	①	環境目標・環境活動計画書の作成
	②	環境活動の実績集計
	③	関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価
	④	環境活動レポートの作成・公開
グループ長	①	グループ内における環境経営システムの実施
	②	グループ内の問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	①	決められた事を守り、自主的・積極的に活動へ参加

3. 環境経営方針

基本理念

真生電化工業株式会社は、技術奉仕を企業理念として硬質クロムめっき加工の事業活動を通じて、「環境に配慮したモノづくり」に貢献しています。機械部品や回転及び摩擦する重要部品にめっきを施すことにより、耐摩耗性を向上させ製品寿命を伸ばします。

今後は、ますます深刻化する地球温暖化への対応や有限である資源の有効利用が人類共通の課題と考え、「環境に負荷をかけないモノづくり」を目指し、全社一丸となって自主的・積極的に環境負荷低減にも取り組んでいきます。

基本方針

1. 事業活動から環境に与える影響について評価し、環境負荷を低減するため、自主的目標を立案・実行し、計画的な見直しを行い、継続的な改善を行います。
2. 具体的に以下の項目について重点的に取り組みます。
 - (1)電力、化石燃料使用の効率化を図り、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - (2)廃棄物の排出削減と適正処理に努めます。
 - (3)法規制に伴う水質汚濁規制物質の排水基準値を遵守し、排水量削減のための洗浄技術対策に努めます。
 - (4)水の使用量の削減(節水)に努めます。
 - (5)化学物質使用効率を最適化し、環境保全に努めます。
 - (6)環境負荷の小さいものを優先して調達し、「グリーン購入」に努めます。
 - (7)更なる「環境に配慮したモノづくり」を目指し、部分めっきを施して機械部品の補修や再生に努めます。
3. 環境に関する法規制等を遵守します。
4. 全従業員に本方針を周知徹底させるとともに、必要に応じて外部の人が入手できるように公開します。

2010年 8月 31日 制定
真生電化工業株式会社
代表取締役 **石井 博**

4. 環境経営目標

＜単年度兼中期環境経営目標＞

- 2019年度基準として、中期(2021年度～2023年度)環境経営目標を設定する。
- 生産量の増減に影響されずに評価するため、基本的に目標設定は原単位ベースで考える。

環境経営目標	環境経営目標項目(原単位を管理目標とする)		基準 2019年度	2022年度 管理経営目標	2023年度 管理経営目標	2024年度 管理経営目標
二酸化炭素 排出削減 (削減率1% 対基準年/年)	電力使用削減	kg-CO ₂	127, 139	123, 361	122, 127	120, 905
		kg-CO ₂ /万円	10. 96	10. 63	10. 52	10. 41
	化石燃料使用量削減	kg-CO ₂	115, 407	111, 978	110, 858	109, 749
		*****	*****	*****	*****	*****
	二酸化炭素排出合計	kg-CO ₂	242, 546	235, 340	232, 986	230, 656
		*****	*****	*****	*****	
廃棄物 排出削減 (削減率1% 対基準年/年)	紙の使用量削減	枚	10, 120	9, 817	9, 718	9, 620
		枚/万円	0. 872	0. 845	0. 836	0. 827
	一般廃棄物削減	kg	1, 030	997	987	977
		kg/万円	0. 089	0. 086	0. 085	0. 084
	産業廃棄物【スラッジ】削減	kg	7, 836	7, 602	7, 525	7, 449
		kg/万円	0. 563	0. 545	0. 539	0. 533
排水処理 (規制値)	pH		5 以上	5 以上		
	全クロム		2mg/ℓ以下	1. 4mg/ℓ 以下		
	6価クロム		0.5mg/ℓ以下	0. 3mg/ℓ 以下		
	鉛		0.1mg/ℓ以下	0. 07mg/ℓ 以下		
節水 (削減率0.5% 対基準年/年)	上水使用量の削減 (日原単位)	日/年	245	*****	*****	*****
		m ³	1, 493	*****	*****	*****
		m ³ /日	6, 094	6, 001	5, 970	5, 940
化学物質 使用効率の 最適化節水 (削減率0.5% 対基準年/年)	クロム酸(劇物)	kg/万円	0. 086	0. 083	0. 082	0. 081
	硫酸(劇物)	kg/万円	0. 131	0. 128	0. 127	0. 126
	塩酸(劇物)	kg/万円	0. 009	0. 006	0. 005	0. 004
	苛性ソーダ(劇物)	kg/万円	0. 088	0. 085	0. 084	0. 083
	重亜硫酸ソーダ	kg/万円	0. 131	0. 128	0. 127	0. 126
	消石灰	kg/万円	0. 040	0. 037	0. 036	0. 035
グリーン購入	事務用品のグリーン商品購入の 推進(金額比率管理)	%	64	67	68	69
製品への 環境配慮	補修・再生する機械部品めっき の受注金額(比率管理)	千円	4, 120	4, 371	4, 458	4, 547
		% (増加割合)	—	6	8	10





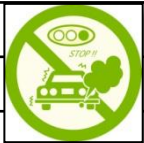
*1: 電気の二酸化炭素換算係数は、実総排出係数 中部電力2018年度0.458を使用 *2: 基準年度2019年度売上額: 11, 600万円

5. 環境経営計画及び、環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

- 硬質クロムめっき加工の事業活動が環境にどのような影響を与えているのかを実態把握し、環境に負荷をかけないモノづくりを目指すべく、「二酸化炭素排出削減」「廃棄物排出削減」「排水処理」「節水」「化学物質使用効率の最適化」「グリーン購入」「製品への環境配慮」に対して重点的に取組む。
- 各々環境目標項目から具体的な取組み内容に落とし込みをする。

計画と実施結果

<環境活動の具体的な取組み内容> ☆:活動の計画、★活動の実績結果

(1)-1 電力使用量削減 (二酸化炭素排出削減) (めっき)		2022年	2033年	2024年
・デマンド監視システムによる電力消費の「見える化」を推進。		☆	☆	☆
・エアコンの使用を控える。(クールビズ推進、アサガオ等で日射の侵入防止)		★	☆	☆
・エアコンの温度の適正化。		★	☆	☆
・省エネタイプのエアコンに更新。		☆	☆	☆
・長時間使用しない器具はコンセントを抜く。		★	☆	☆
・照明器具の間引きを実施。		☆	☆	☆
・照明はこまめに消灯。		★	☆	☆
・適正めっき治具の使用により電流効率を高める。		★	☆	☆
・めっき電流効率改善の検討。		★	☆	☆
・めっき技能の向上		★	☆	☆
(1)-2 化石燃料使用量削減 (二酸化炭素排出削減) (めっき)		2022年	2023年	2024年
・エコドライブを実践、燃費向上に努める。【軽油】		★	☆	☆
・空気圧等の車両整備・点検を実施。【軽油】		★	☆	☆
・急発進/急加速/急ブレーキをしない。【軽油】		★	☆	☆
・不要な空ぶかし運転をしない。【軽油】		★	☆	☆
・暖房器具の温度の適正化。【灯油】		★	☆	☆
・冬季以外は給湯を控える。【LPG】		★	☆	☆
・ボイラー入り/切りの適正化。【重油】		★	☆	☆

(2)-1 紙の使用量削減 (総務)	2022年	2023年	2024年
・毎月の購入枚数を把握し、削減意識を持つ。	★	☆	☆
・裏紙を利用、また両面コピーを推進。	★	☆	☆
・社内ネットワークによる文書の共有化による紙印刷の削減。	☆	☆	☆
・電子データ化によるペーパーレス。	☆	☆	☆
(2)-2 一般廃棄物削減 (総務)	2022年	2023年	2024年
・毎月の廃棄物排出量を把握し、削減意識を持つ。	★	☆	☆
・廃棄物の分別化を徹底してリサイクルを推進。	★	☆	☆
・段ボール、裁断紙等は、古紙リサイクルセンターに持ち込む。	★	☆	☆
(2)-3 産業廃棄物【スラッジ】削減 (排水処理)	2022年	2023年	2024年
・毎月のスラッジ排出量を把握し、削減意識を持つ。	★	☆	☆
・適正めっき治具の使用により、めっき品質向上に努め、再めっきをなくし、無駄にスラッジを発生させない。	★	☆	☆
・スラッジ削減の調査。(添加薬剤、処理方法を再検討)	★	☆	☆
(3) 水質汚濁規制物質の濃度を管理 (めっき 排水処理)	2022年	2023年	2024年
・毎週抽出した水質汚濁規制物質の濃度を把握、管理。	★	☆	☆
(4) 上水使用量の削減 (めっき)	2022年	2023年	2024年
・毎日、上水使用量を把握し、削減意識を持つ。	★	☆	☆
・節水の注意書きを掲示し、節水意識を持つ。	☆	☆	☆
・風呂水を有効活用。	☆	☆	☆
(5) 主要化学物質の使用効率最適化【取扱量削減】 ((めっき 排水処理)	2022年	2023年	2024年
・化学物質使用規制に関し、常に情報収集に努める。	★	☆	☆
・適正めっき治具の使用により、めっき品質向上に努め、再めっきをなくし、無駄に化学物質を浪費しない。	★	☆	☆
・劇物の管理・取扱いは、経験のある資格保持者が実施。	★	☆	☆
(6) 事務用品について、グリーン商品購入の推進 (総務)	2022年	2023年	2024年
・毎月のグリーン商品購入金額比率を把握。	★	☆	☆
・事務用品について、グリーン商品か通常品かを認識して購入。	★	☆	☆
(7) 補修・再生する機械部品めっきの受注 (営業)	2022年	2023年	2024年
・毎月の補修・再生した機械部品めっきの売上高を把握。	☆	☆	☆
・部分めっき可能な技能を養い、機械部品の補修や摩耗した部品が再生できる「めっき」を積極的に受注。	☆	☆	☆

7. 次年度以降の環境経営目標及び、環境経営計画

環境と経営計画

2023年度の環境目標を設定する。生産量の増減に影響される項目については原単位ベースで設定した。

2019年度の間達成状況から、電力使用量と化石燃料使用量について、目標値の見直しを行ったため

2019年度を基準として中間環境目標を設定する。

環境目標	実施事項	基準	目標					
		2019年度		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
二酸化炭素 排出削減	電力使用量削減 (Kg-CO2) (255,813kWh) (Kg-CO2/万円)	127,139	年1%削減	122,127	120,905	119,695	118,498	
		10.96	年1%削減	10.52	10.41	10.30	10.19	
	化石燃料使用量削減 (Kg-CO2) 軽油(6,46728L) 重油(36,340L)	115,407	年1%削減	110,858	109,749	108,651	107,564	
	二酸化炭素排出合計 (Kg-CO2)	242,546	年1%削減	232,986	230,656	228,349	226,065	
産廃物排出 削減	紙の使用量削減 (枚/万円)	0.872	年1%削減	0.836	0.827	0.818	0.809	
	一般廃棄物削減 (Kg/万円)	0.089	年1%削減	0.085	0.084	0.083	0.082	
	産業廃棄物削減 (Kg/万円)	0.563	年1%削減	0.539	0.533	0.527	0.521	
排水処理	水質汚濁物質の濃度を管理 pH以外は 排水基準値	pH 5 以上	環境基準値内	6.5~8.5	←	←	←	
		T-Cr 2mg/l以下	基準値の70%以下	1.4	←	←	←	
		Cr6+0.5mg/l以下	基準値の60%以下	0.3	←	←	←	
		pb 0.1mg/l以下	基準値の70%以下	0.07	←	←	←	
節水	上水使用量削減 (m ³ /日)	6,094	年0.5%削減	5,970	5,940	5,910	5,880	
化学物質使用効率 の最適化	化学物質 の 使用量削減 (Kg/万円)	クロム酸	0.086	年0.5%削減	0.082	0.081	0.080	0.079
		硫酸	0.131	年0.5%削減	0.127	0.126	0.125	0.124
		塩酸	0.009	年0.5%削減	0.005	0.004	0.003	0.002
		苛性ソーダ	0.088	年0.5%削減	0.084	0.083	0.082	0.081
		重亜硫酸ソーダ	0.131	年0.5%削減	0.127	0.126	0.125	0.124
		消石灰	0.040	年0.5%削減	0.036	0.035	0.034	0.033
グリーン購入	事務用品のグリーン購入推進 (%)	64%	前年比 1%UP	68%	69%	70%	71%	
製品への環境配慮		4,120	前年比 2%UP	4,458	4,547	4,637	4,729	

次年度3の環境経営計画 (頁6~7を参照)

調整総排出係数 (0.458)2018年度中部電力を使用

8. 環境経営目標の実績と環境経営計画の取組結果とその評価

●2019年度の実績(19年3月～20年2月)は、中期環境経営計画の基準年度の数値である。

(1) 二酸化炭素排出削減

環境経営目標項目	基準値 (2019年度 実績値)	2022年度の管理経営目標と実績		
		管理経営目標値 1%削減	実測値	評価
二酸化炭素排出合計(総量) (kg-CO ₂)		235, 340	208, 526	○
電力使用量削減	10. 96 【kg-CO ₂ /万円】	10. 63 【kg-CO ₂ /万円】	9. 19 【kg-CO ₂ /万円】	○
化石燃料使用量削減	115, 407 【kg-CO ₂ 】	111, 978 【kg-CO ₂ 】	106, 340 【kg -CO ₂ 】	○

<評価と今後の取組み> 評価 ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

- ・全項目、目標達成出来た。
- ・電力使用量はめっき槽へ投入する製品を、類似品同志をまとめ効率よく電気を流すことで使用量を減らす事で目標を達成できた。
- ・化石燃料はめっき槽の稼働率を高め、ボイラーの使用頻度が減り使用量の減少につながった。

※ 電力の二酸化炭素換算係数は、2018年度 0.458kg-CO₂/kWhを使用

* 2019年度売上高:116, 000万円

2021年度 電力の二酸化炭素排出量 107, 514kg-CO₂

(2) 廃棄物の排出削減

環境経営目標項目	基準値 (2019年度 実績値)	2022年度の管理経営目標と実績		
		管理経営目標値 1%削減	実績値	評価
廃棄物排出削減				
紙の使用量削減 (A4サイズに換算)	0. 872 枚/万円】	0. 845 【枚/万円】	1. 833 【枚/万円】	×
一般廃棄物削減	0. 089 【kg/万円】	0.086 【kg/万円】	0. 101 【kg/万円】	×
産業廃棄物削減 (スラッジ)	0. 563 【kg/万円】	0. 545 【kg/万円】	0. 407 【kg/万円】	○

<評価と今後の取組> 評価 ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

- ・今年度は目標達成に至らなかった。
- 紙の使用量は得意先からメールの添付ファイルや専用サイトへログインして当社でプリントアウトする方式に変わりつつあり使用量が増した。に
- ・一般廃棄物は現在使用していない治具等の処分により目標値を上回った。
- ・産業廃棄物(スラッジ)は、めっき作業の効率化のより廃液も減り削減につながった。

(3) 排水処理

環境経営目標項目	管理経営目標値	2022年度の実績	
		実績値	評価
水質汚濁規制物質の濃度を管理	pH : 5 以上 (排水量: 50m ³ /日 未満)	平均pH:7.17 (6.5~7.9)	○
	全クロム : 2mg/ℓ以下	平均:0.358mg/ℓ (0.12~1.00mg/ℓ)	
	6価クロム : 0.5mg/ℓ以下	0.04mg/ℓ未満	
	鉛 : 0.1mg/ℓ以下	0.02mg/ℓ未満	

<評価と今後の取組み> **評価** ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

・引き続き日常管理を徹底して管理目標値以下に抑えていく。

(4) 節水

環境経営目標項目	基準値 (2019年度 実績値)	2022年度の管理経営目標と実績		
		管理経営目標値 0.5%削減	実績値	評価
上水使用量の削減	6,094 【m ³ /日】	6,001 【m ³ /日】	5,905 【m ³ /日】	○

<評価と今後の取組み> **評価** ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

・基準値(6,094m³/日)及び管理経営目標値(6,001m³/日)とも達成することが出来た。

今後も、めっき稼働率を高め効率的な作業をすることで使用量を抑制していく。

2022年度稼働日243日

(5) 化学物質使用効率の最適化

環境経営目標項目	基準値 (2019年度 実績値)	2022年度の管理と実績		
		管理経営目標値 0.5%削減	実績値	評価
主要化学物質の使用効率最適化【取扱量削減】				
クロム酸(劇物)	0.086 【kg/万円】	0.083 【kg/万円】	0.090 【kg/万円】	△
硫酸(劇物)	0.131 【kg/万円】	0.128 【kg/万円】	0.144 【kg/万円】	×
塩酸(劇物)	0.009 【kg/万円】	0.006 【kg/万円】	0.018 【kg/万円】	×
苛性ソーダ(劇物)	0.088 【kg/万円】	0.085 【kg/万円】	0.061 【kg/万円】	○
重亜硫酸ソーダ	0.131 【kg/万円】	0.128 【kg/万円】	0.088 【kg/万円】	○
消石灰	0.040 【kg/万円】	0.037 【kg/万円】	0.067 【kg/万円】	×

<評価と今後の取組み> **評価** ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

- ・クロム酸、仕事量が増えつつあるため使用量も増加する。
- ・硫酸、塩酸に関してはめっき工程上使用する頻度が増え目標達成には至らなかった。
- ・消石灰に関しては酸の使用量増加に伴い排水処理上で使用する機会が増加し目標値を上回った。
- ・今後は効率的に薬品を使用するよう努めていく。

(6) グリーン購入

環境経営目標項目	基準値 (2019年度 実績値)	2022年度の管理経営目標と実績		
		管理経営目標値	実績値	評価
事務用品について、グリーン商品購入の推進	64%	67.0%	111.3%	○
基準値の算定 グリーン購入金額 事務用品全体購入金額	126,081円 195,547円	実績値の算定 グリーン購入金額 124,797円 事務用品全体購入金額 167,797円		

<評価と今後の取組み> **評価** ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

- ・今年度も高い意識をもって取り組んだ結果大幅に目標値を上回ることが出来た。
- ・次年度も、継続した活動を実施していく。

(7) 製品への環境配慮

環境経営目標項目	基準値 (2019年度 実績値)	2022年度の管理経営目標と実績		
		目標値	実績値	評価
補修・再生する機械部品めっきの受注	4,120千円	2%UP 4,371千円	2%UP 4,400千円	○

<評価と今後の取組み> **評価** ○:目標達成 △:目標達成率の90%以上 ×:目標達成率の90%未満

- ・新規の功績は抑え気味だが、リユースして再生する得意先もあり目標を達成することができた。

8. 法規制等の対応

- 法規制等の対応については、遵守していることを確認した。
- 過去6年間に調査した結果、関係機関から特に指摘・指導はなく、利害関係者からの訴訟もない。

<主要法規制遵守チェックリスト>

区分	法規制	該当内容	該当する項目・設備	違反有無
水質汚濁	下水道法(水質汚濁防止法)	特定施設の設置届出、排水濃度の測定/記録(5年間保管)	排水処理施設(電気めっき業)、pH、全クロム、6価クロム、鉛	無し
騒音	騒音規制法	騒音発生施設の設置届出、地域別騒音基準の順守	送風機、昼(70dB)朝夕(65dB)夜(60dB)	無し
振動	振動規制法	振動発生施設の設置届出、地域別振動基準の順守	送風機、昼(70dB)夜(65dB)	無し
廃棄物	廃棄物処理法	事業者の産業廃棄物に係る処理、産業廃棄物管理票、産業廃棄物保管基準、特管産廃管理責任者の選出、水銀使用製品の廃棄に関する対応	収集運搬・処分業者と委託契約、マニフェスト管理、掲示板による必要事項の表示、特別管理産業廃棄物管理責任者水銀灯、蛍光灯	無し
悪臭	悪臭防止法	事故時の報告	悪臭を出さない	無し
労働安全	労働安全衛生法	安全衛生推進者の選出、特化物等作業主任者の選出、化学物質のリスクアセスメント実施	安全衛生推進者、特定化学物質等作業主任者	無し
	粉じん障害防止規則	作業環境測定の実施・記録(7年間)	バフ研磨設備	無し
化学物質	特定化学物質障害予防規則	局排装置の定期点検・記録(3年間)、作業環境測定の実施・記録(3年間)	クロム酸及びその塩	無し
	毒物及び劇物取締法	盗難/漏洩防止、容器/保管場所への表示	クロム酸、硫酸、苛性ソーダ	無し
危険物	消防法	少量危険物の貯蔵等の基準	重油(第4類) クロム酸(第1類)	無し
電気	電気事業法	法定自主検査・点検の実施、電気工作物 保安・監督業務の委託	高圧受電設備(受電電圧:7000ボルト以下)	無し
再資源	リサイクル法	資源有効、家電、自動車、電機機器	パソコン、家電4品目、自動車、電機機器96品目	無し
水質管理	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	産業公害防止体制整備	公害防止管理者の選任	無し

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

エコアクションによる環境活動は12年目を迎え今年度(2022年3月～2023年2月)は順調なスタートとはならなかった。従業員は環境負荷を少なくするすべは十分承知しているものの新型コロナウイルス感染症のため前年に続き仕事は伸びを欠いた。

1. 売上は前年より15%増加したがコロナ以前の2018年の状況にの戻っていない。
2. 仕事量が以前より減少しているが35000ℓのめっき液は毎日一旦54℃迄上昇させる。めっきの稼働率が悪い。その他脱脂槽、湯洗槽等昇温させる処理液も同じ条件となった。
3. 昭和53年12月、公害防止と合理化設備の設置をした新工場へ移転して40年余を経過、5年位前から人材の新旧入替の状況となっている。現在、5年未満の従業員が過半数を占めている。それはめっき技術の未熟な人材である。近年失敗が多い。これを解決するため2020度より、硬質クロムめっきの密着性及び物理的性能を高める対策を基本から習得することとした。失敗が多かったステンレス(SUS300系)及び鋳物(FC系)の前処理技術が向上した。
4. 脱脂は溶剤及びアルカリ剤を使用し処理濃度、温度、時間の管理と新液更新を早めに行うこととした。酸化皮膜除去は硫酸、塩酸エッチングを行い濃度管理と温度時間を徹底し十分な水洗を行うことであり、活性化したものは通電入槽を行った。
5. 水、酸、アルカリの使用量は横ばいでめっきの失敗が劇的に減少した。
6. 40年前に導入した設備は一部老朽化し色々な不具合が発生している。その都度修理を行っている。
7. 電力使用削減
目標達成した。
8. 化石燃料削減
目標達成した。
9. 排水処理
規制値を順守している。
10. 上水道の節水
目標値を達成できた。
11. クロム酸等の使用最適化
おおむね適正化されている。
12. 事務用品のグリーン購入
カウネットのグリーン用品の品揃えが多くなり採用が拡大しつつある。



13. 再生品のめっき

10年前に納入した部品の取替時期を迎え補給品としての実績が出始めた。

14. 緊急事態訓練

火災発生を想定したものを実施した。

15. 当社はこれからもエコアクション21を通じ、「環境に負荷をかけないものづくり」の経営方針でコツコツと環境負荷活動を積み重ねていき、これらはやがては大きな成果の第一歩となると確信します。

そして、地域に優しい環境対話型企业となるよう努力して行きます。

環境経営方針	見直し	否
環境経営目標	見直し	否
実施体制	見直し	否